

函館市内の温泉施設利用者に関する考察

澤崎 裕太

1 はじめに

函館市は北海道の渡島半島の南東端に位置する都市である。函館の奥座敷といわれる湯の川温泉は観光地としても有名であるが、その他にも温泉施設や温泉銭湯が数多く存在していることはあまり知られていない。それらの温泉施設を利用している人たちはどのような人たちであるのか。函館市内の温泉施設利用者への聞き取り調査を行ない、そこから考察していく。

本調査では函館市内の温泉施設の中から日帰り入浴を行なっている温泉施設の中から4つの公共温泉施設（花の湯・にしき温泉・乃木温泉・市営谷地頭温泉）の利用者にお話を伺った。

2 温泉施設の概要

本調査で聞き取りを行なった函館市内の温泉



図1 調査地

施設を図1に示す。北側から順に「花の湯」「にしき温泉」「乃木温泉」「谷地頭温泉」である。

創業年は、花の湯が2003年、にしき温泉1971年、乃木温泉2007年、谷地頭温泉1953年である。花の湯と乃木温泉の二つの施設は2000年以降建てられたもので、とても新しい施設であると言える。駐車場の駐車可能台数で見ると、花の湯が200台で他の3つの施設は100台前後であり大差はない。

営業時間という点で見ると、にしき温泉、谷地頭温泉の二つの古い温泉施設は早朝(朝6時頃)から営業している。

3 調査方法・調査人数

本調査は、それぞれの温泉施設で利用者一人一人に声をかけ、調査に協力していただける方に聞き取り調査を行なうという形式で行なった。

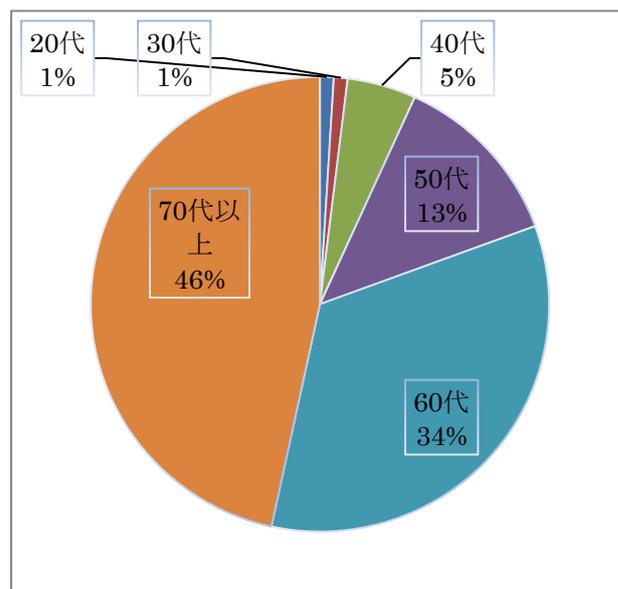


図2 調査対象者の年代構成

今回調査に協力していただいたのは、すべての施設を合わせて103人（男性56人、女性47人）である。年代構成を見てみると、60代の利用者が3割、70代以上の利用者が5割近くおり、60代以上の利用者と考えると7割以上にも上る。

4 調査結果

聞き取りの調査結果を施設ごとに利用者分布と利用者の年齢構成まとめて示す。

(1) 花の湯

本調査で一番北側に位置し、函館駅からは一番遠い場所に位置している。今回の調査対象地では唯一国道沿いにある。



図3 花の湯の利用者分布

[■が施設所在地、●が利用者の分布]

花の湯では男性9人、女性11人の計20人に

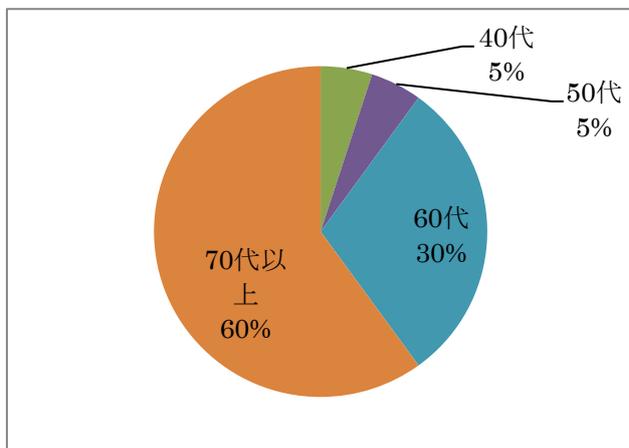


図4 花の湯利用者の年齢構成

お話を伺うことができた。

この温泉施設を利用している理由を伺ったところ、60%の方が「近いから」という回答をし、1番多かった。2番目に多かった理由は、「お湯が良いから」というもので、50%とこちらも多かった。実際に利用者の分布を見てみると、近くから来ている人もいるものの、遠方から来ている人も見られた。利用している年齢は60代以上で9割を占めた。

交通手段としては車を利用している人が80%で、ほとんどを占め、続いて、自転車、徒歩がそれぞれ10%であった。

(2) にしき温泉

にしき温泉は1971年創業で今回の調査施設の中では2番目に古い施設である。男性19人、女性6人の計25人にお話を伺うことができた。



図5 にしき温泉の利用者分布

温泉を利用する理由としては、「天然温泉であるから」「泉質がいいから」「お湯の温度がぬるいのから熱いものまであって良いから」などといったように温泉の内容に関するものが多かった。(全体の75%) 一方で「近いから」を理由として挙げた人は16%にとどまった。実際の利用者の分布を見てみると、遠方

から来ている人も多いが、近くから来ている人も少なくないように見える。

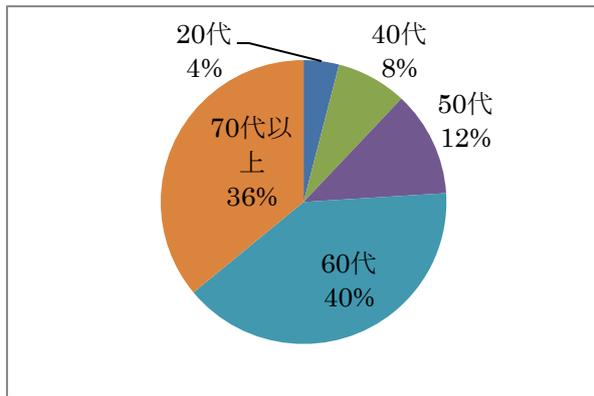


図6 にしき温泉利用者の年齢構成

交通手段としては、車72%、自転車16%、徒歩8%、電車4%であった。

(3) 乃木温泉

2007年に創業の施設で非常に新しい温泉施設である。男性14人、女性11人の計25人にお話を伺うことができた。

この温泉施設を利用する一番の理由としては、「近いから」が挙げられており、72%にのぼる。しかし、聞き取りの中で、「特に理由はないが、しいて理由を挙げるならば近いから。」というような積極的な理由がない人も多く見られた。



図7 乃木温泉の利用者分布

交通手段としては車72%、徒歩24%、自転車

4%であった。

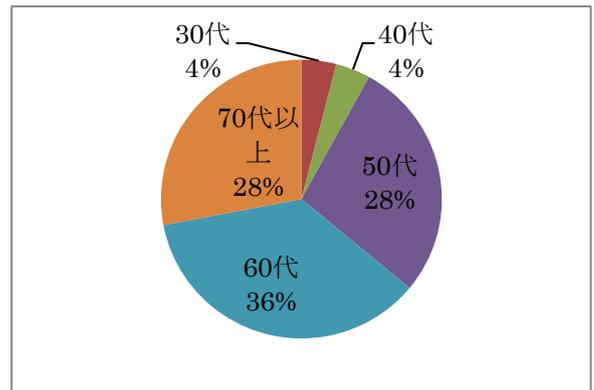


図8 乃木温泉利用者の年齢構成

(4) 谷地頭温泉

谷地頭温泉は市営の温泉であり、創業は1951年と調査対象施設の中では一番古い施設である。男性14人、女性19人の計33人にお話を伺うことができた。



図9 谷地頭温泉の利用者分布

この温泉を利用している理由としては「お湯がいい」という回答が一番多かった。(55%) また、「昔から利用しているから」「帰省のたびに来ているから」などの回答も多くみられた。近いからという点を理由として挙げる人は少なかった。また、温泉利用だけでなく広い休憩所を活用してご飯を食べるために利用する人もいた。

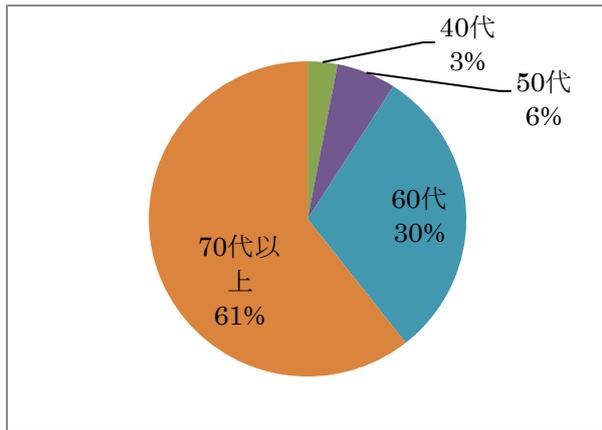


図 10 谷地頭温泉利用者の年齢構成

交通手段を見て見ると、車 49%、バス 17%、徒歩 12%、自転車 11%、電車 11%であった。

5 考察・まとめ

4つの施設の利用者からの聞き取り結果を比べてみると、いくつかの違いが見受けられた。

一つ目の違いとしては施設を利用している理由についてである。利用者分布を見る限りではどの施設も近くから来ている人に大差はないように思える。しかし、理由として近いからということを挙げる人は花の湯と乃木温泉では60%以上になるのに対して、にしき温泉と谷地頭温泉では20%にも満たなかった。近いという理由がどの施設でも挙げられていたが実際は遠くから車で来ている人も多い。つまり、交通の便の良さが近いと感じる理由になっていると思われる。

にしき温泉と谷地頭温泉の二つの温泉に共通して言えることは、創業が他の二つより古いということである。近さよりも他にその施設の魅力に惹かれてきている人が多いのがその理由であると考えられる。その裏付けとして、にしき温泉と谷地頭温泉の利用理由としては温泉の内容に起因するものが大半を占めた。

二つ目の違いとしては交通手段についてである。車を利用している人が多いという点についてはどの施設にも共通して言えることであるが、谷地頭温泉の利用者の特徴として、電車やバスを利用している人が多いということが挙げられる。谷地頭温泉以外の施設の付近にも駅やバス

停は存在しているので、電車やバスを利用できないわけではない。つまり、これは谷地頭温泉の大きな特徴といえるのではないだろうか。

三つ目の違いとしては年齢構成についてである。どの施設にも共通して言えることは、60代以上が多いことであるが、花の湯と谷地頭温泉は60代以上で9割を占めた。また、乃木温泉は50代の利用者が多かった。これは聞き取りの結果から仕事帰りの利用者が多かったことが要因だと考えられる。

古くからある温泉施設にはお湯の良さを求めてくる利用者が多く、そのために遠方から電車やバスを利用してくる人もいる。一方比較的新しい温泉施設の利用者はその近さから利用する人が多い。谷地頭温泉のような古くからある温泉は地域に根付いており、60代以上の人たちによく利用されている。温泉が多い函館であるが、観光地として有名な湯の川温泉だけでなく地元の人たちが通う温泉もあることが分かった。このような事実は、その土地の文化や伝統を考えていく上で、手がかりになりうるのではないかと感じた。

謝辞

この報告書作成にあたって、聞き取り調査を許可していただいた各温泉施設の方々、また、聞き取り調査にご協力いただいた利用者みなさまにこの場を借りてお礼申し上げます。